

令和 8 年 1 月 20 日

# 交 通 事 故 概 況

令和 7 年 12 月末計上数(確定数)

警察本部交通部交通企画課

## 北海道の交通事故概況(12月末計上数(確定数))

## 1 令和7年12月末の交通事故発生状況

区分\内容	12月中	12月末	
		前年比	前年比
発生件数(件)	948	112	-268
死者数(人)	13	0	25
傷者数(人)	1,105	116	-470

[過去10年、12月中12月末の推移]

区分\年別	H27年	H28年	H29年	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	過去平均	R7年
											10か年	
12月中死者数	9	14	11	12	12	18	10	6	12	13	12	12
年間死者数	177	158	148	141	152	144	120	115	131	104	139	123

## 都道府県別(12月中)

順位	1	2	3	4
都道府県名	埼玉	神奈川	千葉	北海道
死者数	22	20	17	13

## 都道府県別(12月末)

順位	1	2	3	4	5
都道府県名	神奈川	東京	北海道	埼玉	千葉
死者数	139	134	129	125	122

## 2 交通事故の発生状況(主なもの)

## (1) 12月中の死亡事故(死者13人)

- 事故類型別：正面衝突が5人(38.5%)、人対車両が4人(30.8%)
- 道路別：国道が7人(53.8%)、市町村道が4人(30.8%)、
- 地形・道路形状別：非市街地カーブが4人(30.8%)、市街地交差点、市街地直線が各々3人(23.1%)
- 発生時間別：6~8時、10~12時が各々3人(23.1%)
- 第一当事者年齢別(第一当事者原付以上)：高齢運転者、40歳代の運転者による死者が各々3人(23.1%)
- 第一当事者違反別(第一当事者原付以上)：前方不注意が5人(38.5%)、操作不適が3人(23.1%)
- 死者年齢別：高齢者の死者が7人(53.8%)、40歳代、50歳代の死者が各々2人(15.4%)

## (2) 12月末の死亡事故(死者129人)

## ○ 事故類型別：

- ・車両単独が43人33.3% (うち操作不適が19人44.2%、前方不注意が16人37.2%)
- ・人対車両が34人26.4% (うち前方不注意が15人44.1%、歩行者妨害が8人23.5%)
- ・正面衝突が27人20.9% (うち操作不適11人40.7%、前方不注意が10人37.0%)

## ○ 道路別：

- ・国道が54人41.9% (うち正面衝突が20人37.0%、車両単独が15人27.8%)
- ・市町村道が34人26.4% (うち人対車両が13人38.2%、車両単独が8人23.5%)
- ・道道が30人23.3% (うち車両単独が10人33.3%、人対車両が9人30.0%)

## ○ 地形・道路形状別：

- ・市街地交差点が34人26.4% (うち人対車両が16人47.1%、自転車対車が6人17.6%)
- ・市街地直線が28人21.7% (うち人対車両、車両単独が各々10人35.7%)

## ○ 発生時間別：

- ・8~10時が18人14.0% (うち出会い頭5人27.8%、正面衝突が4人22.2%)
- ・16~18時が17人13.2% (うち人対車両が6人35.3%、車両単独が4人23.5%)

## ○ 第一当事者年齢別(第一当事者原付以上)：

- ・高齢運転者による死者が43人33.3% (うち車両単独20人46.5%、正面衝突が11人25.6%)
- ・50歳代運転者による死者が26人20.2% (うち車両単独が7人26.9%、人対車両が6人23.1%)

## ○ 第一当事者違反別(第一当事者原付以上)：

- ・前方不注意が44人34.1% (うち車両単独が16人36.4%、人対車両が15人34.1%)
- ・操作不適が31人24.0% (うち車両単独が19人61.3%、正面衝突が11人35.5%)

## ○ 死者年齢別：

- ・高齢者の死者が71人55.0% (うち人対車両が24人33.8%、車両単独が22人31.0%)
- ・50歳代の死者が19人14.7% (うち車両単独が8人42.1%、正面衝突が6人31.6%)

## ○ シートベルト非着用者：

自動車(二輪を除く)乗車中の死者63人中、シートベルト非着用者は25人(39.7%)であり、そのうち18人(72.0%)はシートベルトをしていれば助かった可能性が高い。

### (3) 方面別発生状況

12月中の死者数は札幌方面、旭川方面が各々4人(30.8%)、釧路方面、北見方面が各々2人(15.4%)、函館方面1人(7.7%)となっている。

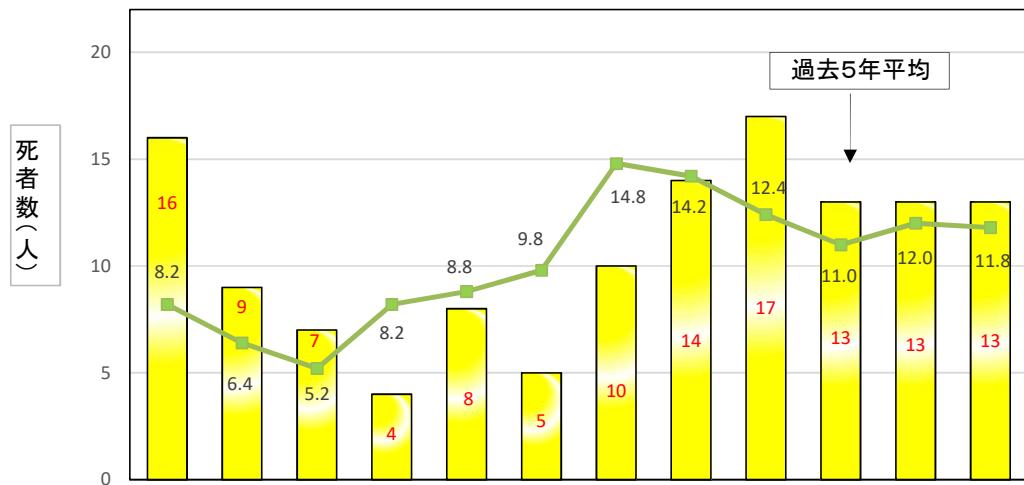
12月末の死者数は札幌方面が63人(48.8%)、釧路方面が25人(19.4%)、旭川方面、北見方面が各々17人(13.2%)、函館方面が7人(5.4%)となっている。

方面別＼区分		発生件数	前年比	死者数	前年比	傷者数	前年比	方面別＼区分		発生件数	前年比	死者数	前年比	傷者数	前年比
12 月 中	全 道	948	112	13		1,105	116	全 道	8,475	-268	129	25	9,827	-470	
	札 幌 方 面	723	118	4		846	127	札 幌 方 面	6,216	-224	63	12	7,201	-417	
	函 館 方 面	71	14	1		88	24	函 館 方 面	620	70	7	2	761	97	
	旭 川 方 面	92		4	2	96	-17	旭 川 方 面	750	-13	17	1	851	-49	
	釧 路 方 面	42	-25	2	-3	51	-23	釧 路 方 面	663	-108	25	1	757	-92	
	北 見 方 面	20	5	2	1	24	5	北 見 方 面	226	7	17	9	257	-9	

### (4) 月別発生状況の推移

12月中の死者数は13人で過去5年平均11.8人を上回っている。

12月末の死者数は129人で過去5年平均122.8人を上回っている。



区分＼月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
令 和 7 年	16	9	7	4	8	5	10	14	17	13	13	13	129
年 間 累 計	16	25	32	36	44	49	59	73	90	103	116	129	
過去 5 年 平 均	8.2	6.4	5.2	8.2	8.8	9.8	14.8	14.2	12.4	11.0	12.0	11.8	122.8
累 計 平 均	8.2	14.6	19.8	28.0	36.8	46.6	61.4	75.6	88.0	99.0	111.0	122.8	

### (5) 都道府県別死者数

12月中は埼玉県が22人で最も多く、次いで神奈川県が20人、千葉県が17人、北海道、愛知は13人で4位となっている。

12月末は神奈川県が139人で最も多く、次いで東京都が134人、北海道が129人で3位となっている。

区分＼都道府県	埼玉	神奈川	千葉	北海道	愛知	兵庫	静岡	東京	福岡	群馬	全国
12月中死者数	22	20	17	13	13	12	12	11	11	10	290
ワースト順位	1	2	3	4	4	6	6	8	8	10	—
前年比	6	7	7	0	-2	0	-1	-5	3	5	3
増減率(%)	37.5	53.8	70.0	0.0	-13.3	0.0	-7.7	-31.3	37.5	100.0	1.0

区分＼都道府県	神奈川	東京	北海道	埼玉	千葉	大阪	愛知	兵庫	福岡	茨城	全国
12月末死者数	139	134	129	125	122	120	112	98	85	82	2,547
ワースト順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	9	—
前年比	30	-12	25	12	-9	-7	-29	-11	-6	-12	-116
増減率(%)	27.5	-8.2	24.0	10.6	-6.9	-5.5	-20.6	-10.1	-6.6	-12.8	-4.4

### 3 12月末の死亡事故の特徴

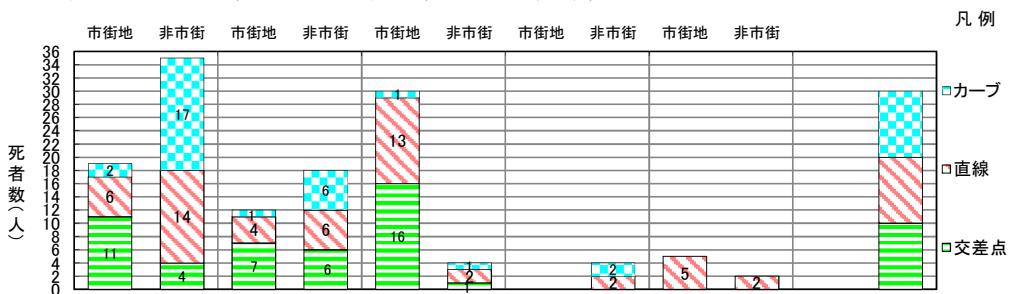
#### (1) 道路別

国道が54人(41.9%)、市町村道が34人(26.4%)、道道が30人(23.3%)。

- ・国道は、非市街地カーブが17人(31.5%)、非市街地直線が14人(25.9%)

- ・市町村道は、市街地交差点が16人(47.1%)、市街地直線が13人(38.2%)

- ・道道は、市街地交差点7人(23.3%)、非市街地交差点、非市街地直線、非市街地カーブが各々6人(20.0%)

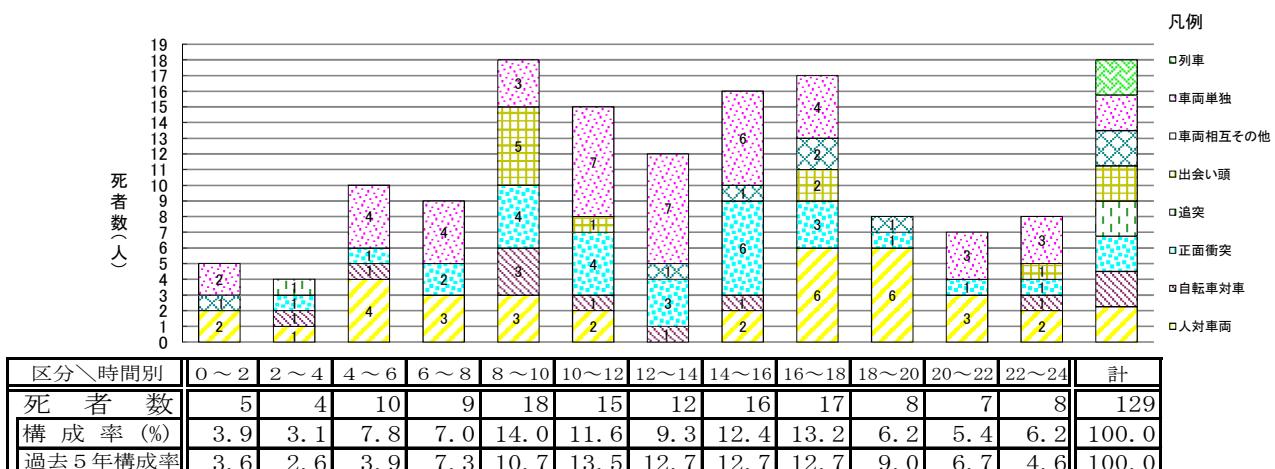


#### (2) 時間別

8~10時が18人(14.0%)、16~18時が17人(13.2%)となっている。

- ・8~10時は、出会い頭が5人(27.8%)、正面衝突が4人(22.2%)

- ・16~18時は、人対車両が6人(35.3%)、車両単独が4人(23.5%)



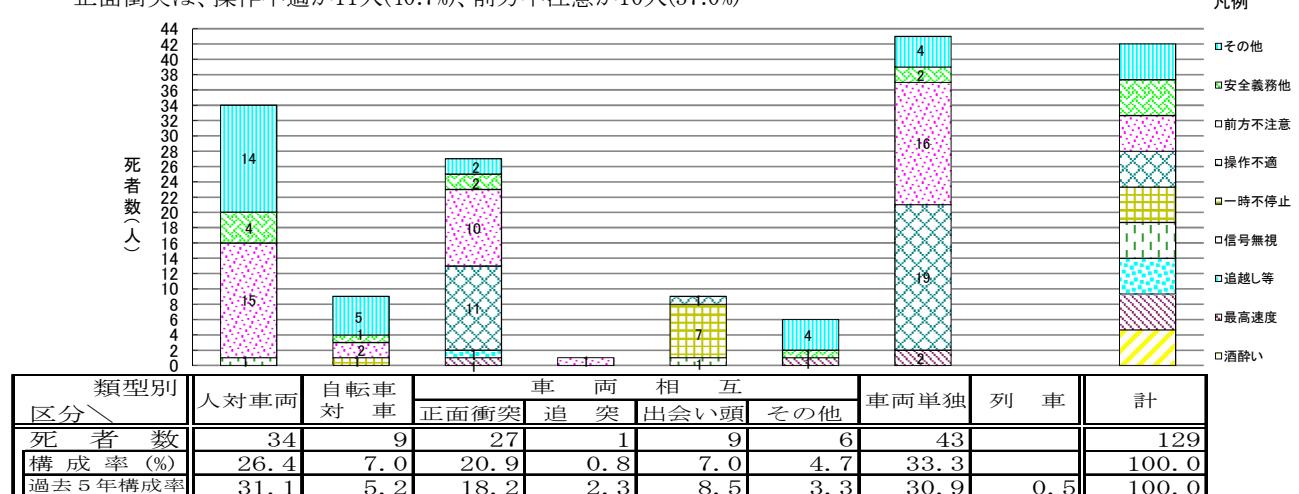
#### (3) 事故類型別

車両単独が43人(33.3%)、人対車両が34人(26.4%)、正面衝突が27人(20.9%)となっている。

- ・車両単独は、操作不適が19人(44.2%)、前方不注意が16人(37.2%)

- ・人対車両は、前方不注意が15人(44.1%)、その他(歩行者妨害が含まれる)が14人(41.2%)

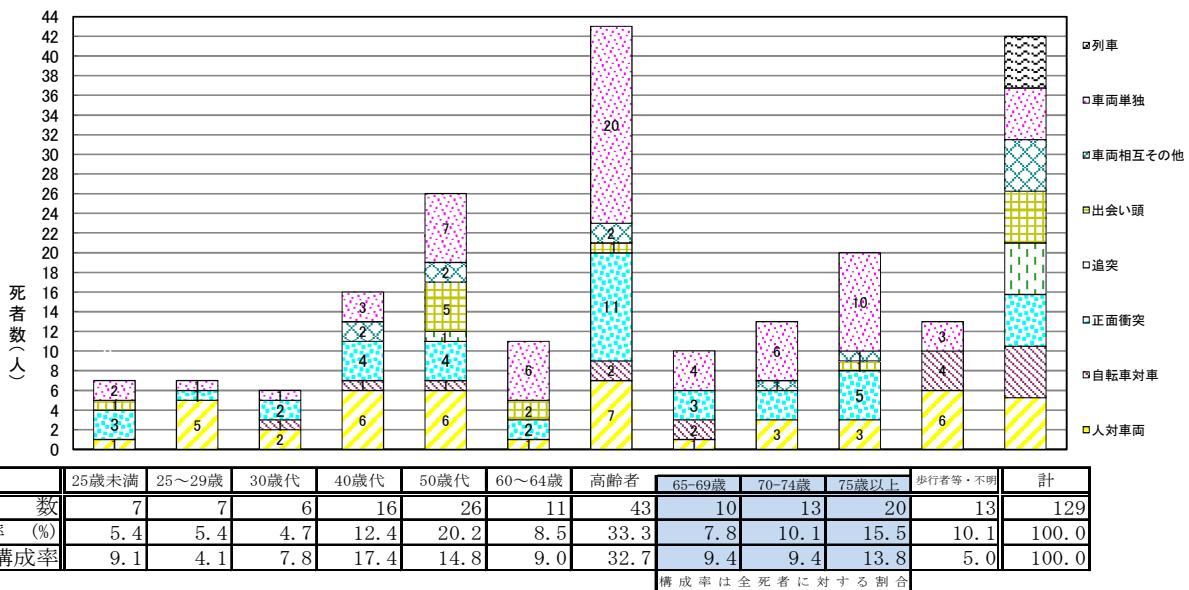
- ・正面衝突は、操作不適が11人(40.7%)、前方不注意が10人(37.0%)



#### (4) 第一当事者の年齢層別:

- 高齢運転者が43人(33.3%)、50歳代の運転者が26人(20.2%)となっている。  
 ・高齢運転者は、車両単独が20人(46.5%)、正面衝突が11人(25.6%)  
 ・50歳代の運転者は、車両単独が7人(26.9%)、人対車両が6人(23.1%)

凡例

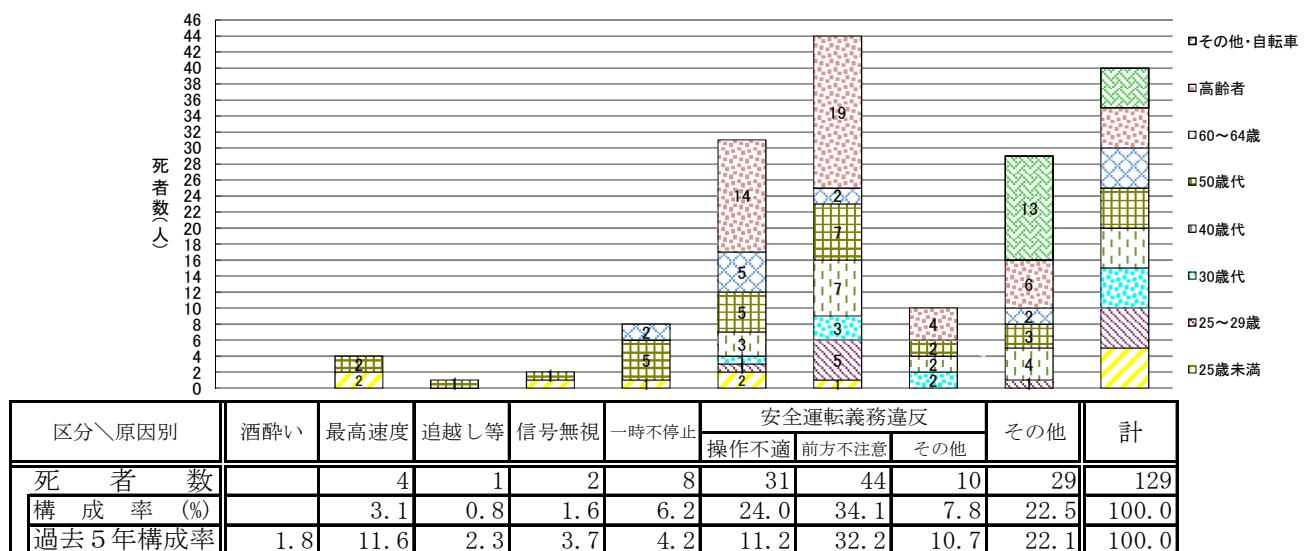


#### (5) 第一当事者の違反

前方不注意によるものが44人(34.1%)、操作不適によるものが31人(24.0%)となっている。

- 前方不注意は、高齢運転者による死者が19人(43.2%)、40歳代、50歳代運転者による死者が各々7人(15.9%)
- 操作不適は、高齢運転者による死者が14人(45.2%)、50歳代、60~64歳の運転手による死者が各々5人(16.1%)

凡例

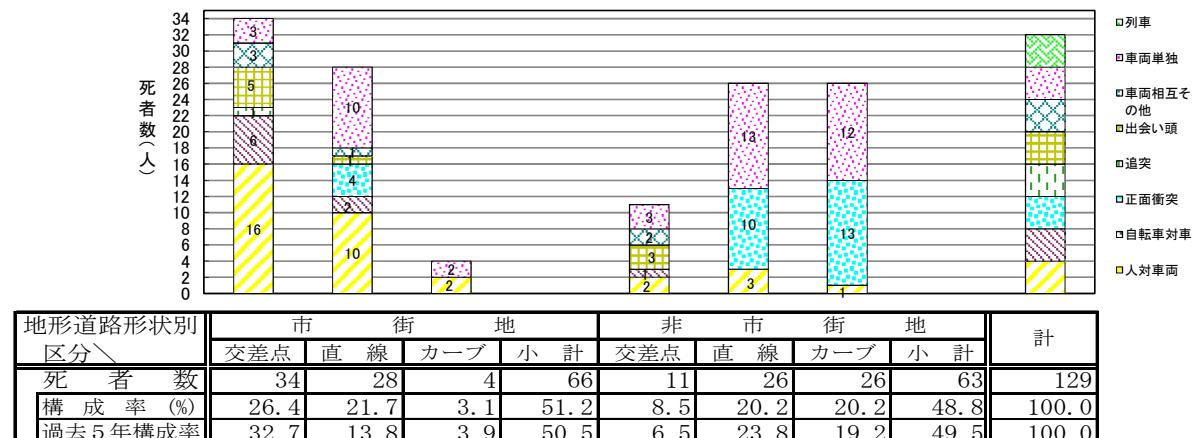


#### (6) 地形・道路形状別

市街地交差点が34人(26.4%)、市街地直線が28人(21.7%)となっている。

- 市街地交差点は、人対車両が16人(47.1%)、自転車対車が6人(17.6%)
- 市街地直線は、人対車両、車両単独が各々10人(35.7%)

凡例

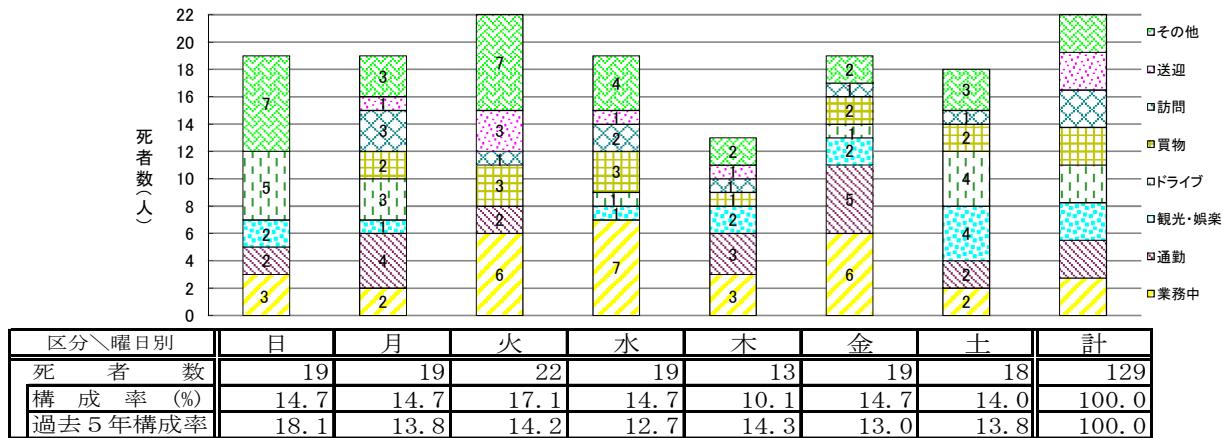


## (7) 曜日別

火曜日が22人(17.1%)、日曜日、月曜日、水曜日、金曜日が各々19人(14.7%)となっている。

- 火曜日は、業務中が6人(27.3%)、買物、送迎が各々3人(13.6%)
- 日曜日は、ドライブが5人(26.3%)、業務中が3人(15.8%)
- 月曜日は、通勤が4人(21.1%)、ドライブ、訪問が各々3人(15.8%)
- 水曜日は、業務中が7人(36.8%)、買物が3人(15.8%)
- 金曜日は、業務中が6人(31.6%)、通勤が5人(26.3%)

凡例

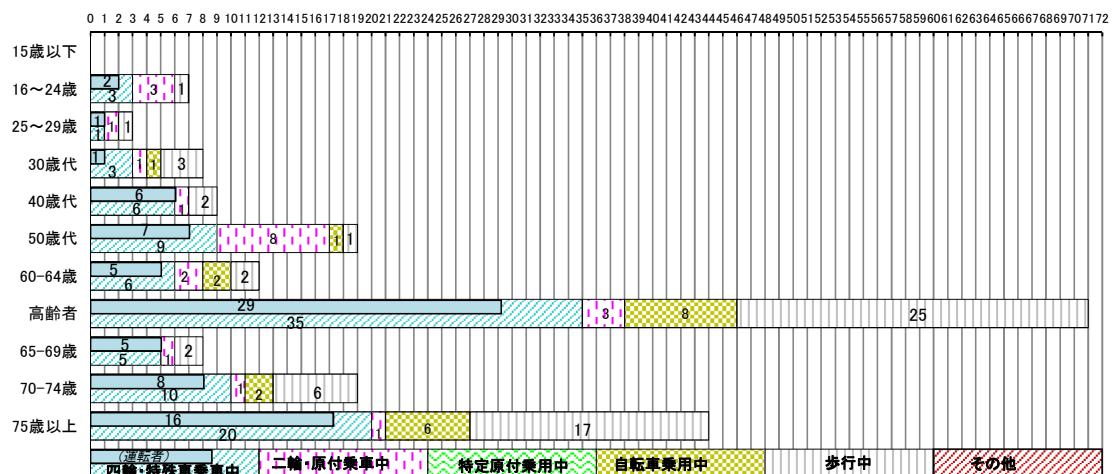


## (8) 状態別・年齢層別

年齢層別死者数では、高齢者の死者数が71人(55.0%)、次いで50歳代の死者が19人(14.7%)となっている。

四輪乗車中の死者数が63人(48.8%)、次いで歩行中の死者数が35人(27.1%)となっている。

死者数(人)



状態別 年齢層別＼	四 輪 乗車中 (特殊車を含む)	二 輪 乗車中 (一般原付を含む)	特定原付 乗車中	自 転 車 乗 用 中	歩 行 中	そ の 他	計	構 成 率	5年構成率
								死 者 数	死 者 数
15歳以下									2.3
16~24歳	3	3			1		7	5.4	7.0
25~29歳	1	1					3	2.3	2.6
30歳代	3	1	3				8	6.2	4.9
40歳代	6	1	2				9	7.0	9.9
50歳代	9	8		1	1		19	14.7	13.0
60~64歳	6	2		2	2		12	9.3	7.0
高齢者	35	3		8	25		71	55.0	53.3
65~69歳	5	1			2		8	6.2	8.5
70~74歳	10	1		2	6		19	14.7	11.9
75歳以上	20	1		6	17		44	34.1	32.9
計	63	19		12	35		129	100.0	
	構 成 率	48.8	14.7		9.3	27.1		100.0	—
	過去 5 年構成率	48.0	13.5		6.5	31.6	0.3	100.0	—

注 高齢者の内訳の構成率は全死者に対する割合。

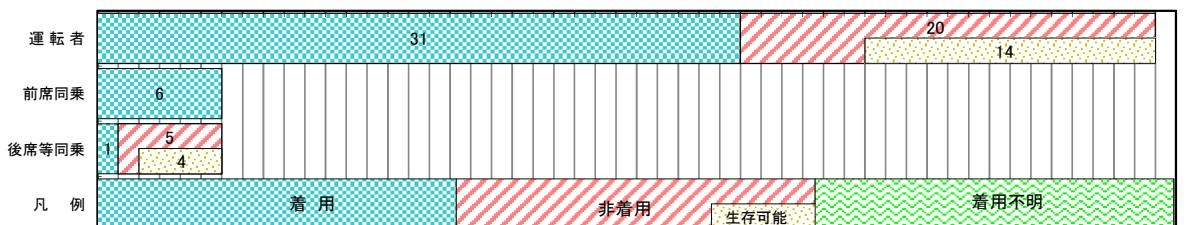
## (9) シートベルト着用状況別

### ア 乗車区分別

四輪乗車中の死者63人中、シートベルト非着用者は25人(39.7%)となっている。

非着用者の25人のうち18人(72.0%)は、車両の破損状況等から見て、シートベルトを着用していれば生存していた可能性が高い。

死者数(人)  
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52



区分	四輪 乗車中 等	着用			非着用				着用 不明	
		計	運転者	同乗者	計	運転者	同乗者(助手席)	同乗者(後部席)		
令和7年	63	38	31	6	1	25	20	14	5	4
構成率(%)	100.0	60.3	81.6	15.8	2.6	39.7	80.0	70.0	20.0	80.0

### イ 年齢層別

シートベルト非着用者を年齢層別にみると、高齢者が17人(68.0%)となっている。

区分\年齢別	25歳未満	25~29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60~64歳	高齢者	65~69歳	70~74歳	75歳以上	その他・不明	計
ベルト着用	1	1	2	5	8	3	18	3	7	8		38
構成率(%)	2.6	2.6	5.3	13.2	21.1	7.9	47.4	7.9	18.4	21.1		100.0
ベルト非着	2		1	1	1	3	17	2	3	12		25
構成率(%)	8.0		4.0	4.0	4.0	12.0	68.0	8.0	12.0	48.0		100.0

注 構成率は区分別の合計数に対する割合。

高齢者の内訳の構成率は合計数に対する割合。

### ウ 損傷加害部位別

シートベルト非着用者25人の損傷加害部位をみるとハンドルが7人(28.0%)、ドア・窓が5人(20.0%)となっている。

区分\部位別	車外放出	車外他	ハンドル	Fガラス	計器盤	ドア・窓	柱	天井	座席	室内他	シートベルト	他・不明	計
ベルト着用			1	6	3	1	5			6	4	10	38
構成率(%)			2.6	15.8	7.9	2.6	13.2			15.8	10.5	26.3	5.3 100.0
ベルト非着	2	1	7	1		5		2	2	2		3	25
構成率(%)	8.0	4.0	28.0	4.0		20.0		8.0	8.0	8.0		12.0	100.0
運転者	2	1	7	1		3		1	2			3	20
構成率(%)	8.0	4.0	28.0	4.0		12.0		4.0	8.0			12.0	80.0
同乗者						2		1		2			5
構成率(%)						8.0		4.0		8.0			20.0

注 構成率は区分別の合計数に対する割合。

但し、ベルト非着用の運転・同乗者別の構成率は、ベルト非着用の合計数に対する割合。

## 4 冬型交通事故の発生状況(計上月基準)

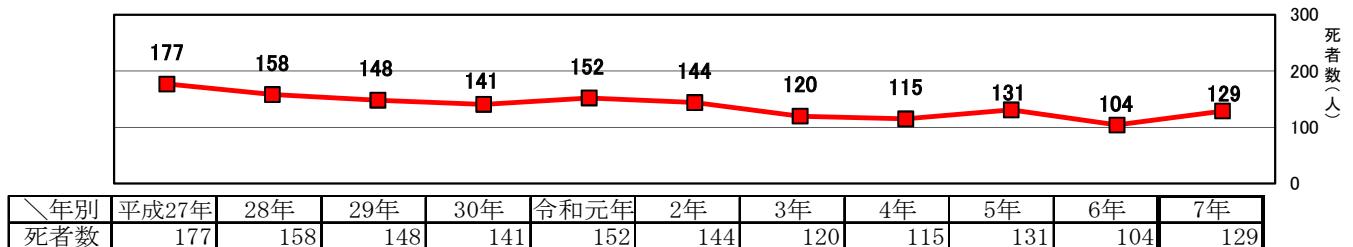
冬型事故の令和6年度及び7年度(ここでは令和6年11月～令和7年12月)の計上は次のとおり。

年度区分		死 者 数						(死者数 人)
		11月	12月	1月	2月	3月	計	
令和7年度	死亡事故	13	13					26
	冬型事故	3	5					8
	ズリップ	3	5					8
	視界不良							
	わだち							
令和6年度	死亡事故	6	13	16	9	7		51
	冬型事故	1	5	2	5	2		15
	ズリップ	1	5	2	4	2		14
	視界不良					1		1
	わだち							
	その他							

## 5 過去10年間の推移（各年12月末死者数）

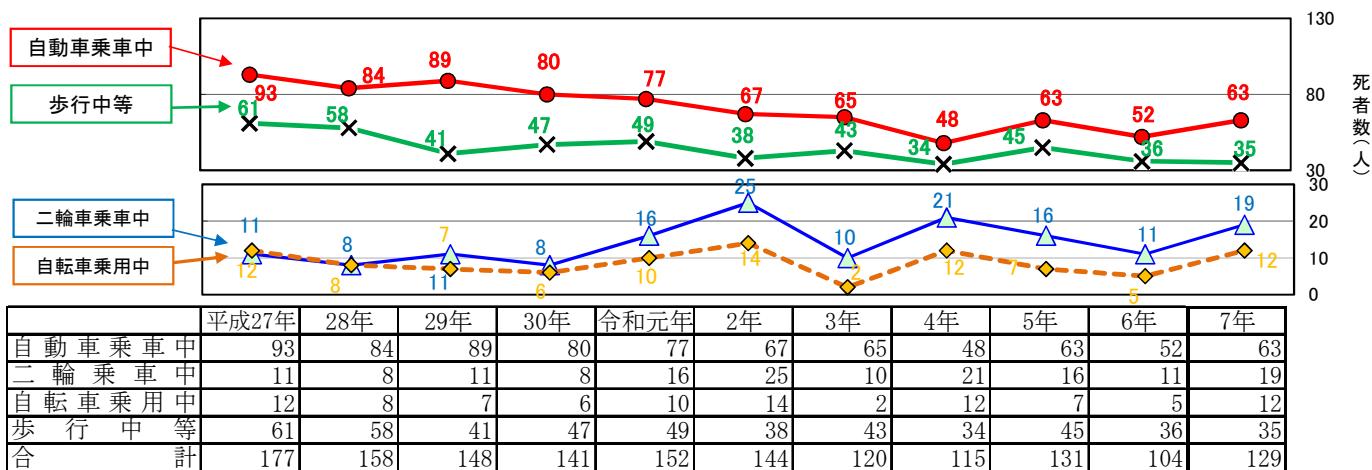
### (1) 死者数の推移

平成27年以降は、長期的に減少傾向で推移していたが、令和7年は前年より25人増加した。



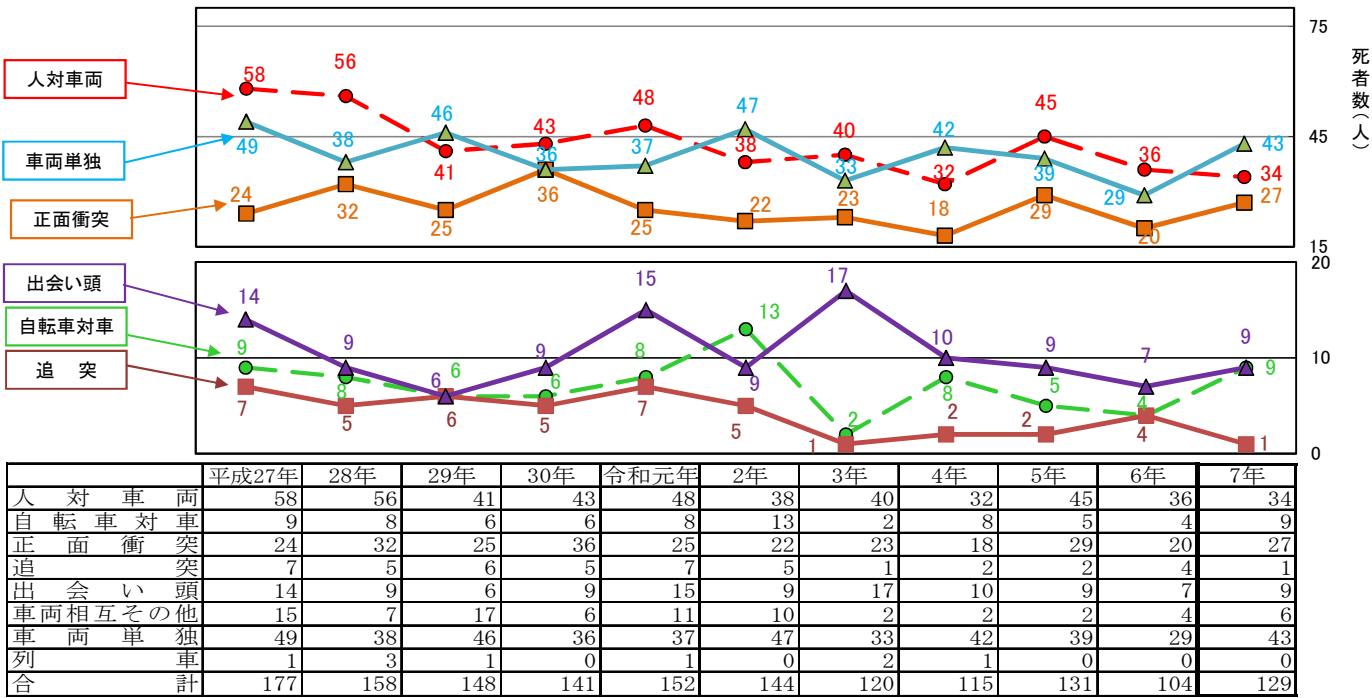
### (2) 状態別

- 自動車乗車中（二輪を除く）は、減少傾向であったが、令和7年は前年比+11人の63人となっている。
- 歩行中等は、増減を繰り返しながらも減少傾向推移し、令和7年は前年比-1人の35人となっている。
- 二輪乗車中は、令和6年は11人、令和7年は前年比+8人の19人となっている。
- 自転車乗用中は、令和6年は5人、令和7年は前年比+7人の12人となっている。



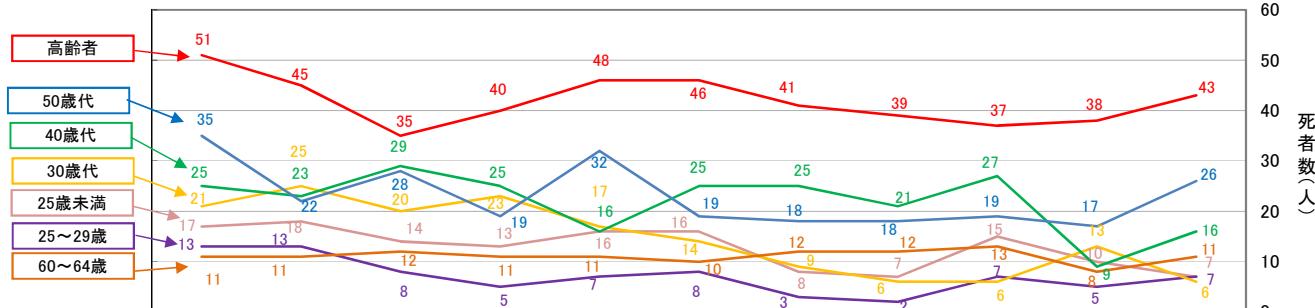
### (3) 事故類型別

- 人対車両は、増減を繰り返しながらも減少傾向で推移し、令和7年は34人で前年比-2人となっている。
- 車両単独は、おおよそ40人前後で推移し、令和6年は29人まで減少したが令和7年は43人と前年比+14人と増加した。
- 正面衝突は、おおよそ25人前後で推移し令和7年は+2人の増加の27人となっている。
- 出会い頭は、令和3年が17人で最も多く、令和7年は前年比+2人で9人となっている。
- 自転車対車は、おおよそ7人前後で令和7年は9人となっている。
- 追突は、直近5年では平均約3人と過去10年の傾向をみても低水準となっている。



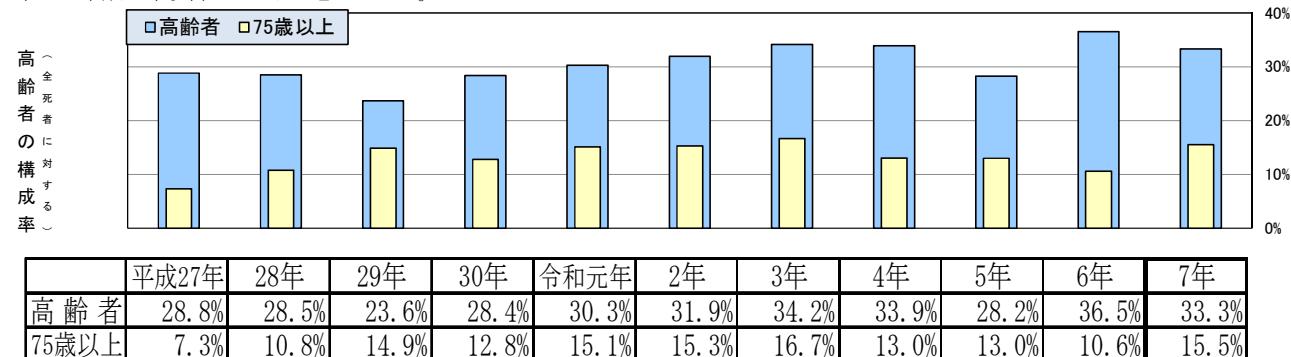
#### (4) 第一当事者年齢層別

過去10年間の傾向から見ると、高齢者が常に大きな割合を占め、他の年代については年毎のばらつき大きい。



	平成27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年
25歳未満	17	18	14	13	16	16	8	7	15	10	7
25~29歳	13	13	8	5	7	8	3	2	7	5	7
30歳代	21	25	20	23	17	14	9	6	6	13	6
40歳代	25	23	29	25	16	25	25	21	27	9	16
50歳代	35	22	28	19	32	19	18	18	19	17	26
60~64歳	11	11	12	11	11	10	12	12	13	8	11
高齢者	51	45	35	40	46	46	41	39	37	38	43
75歳以上	(13)	(17)	(22)	(18)	(23)	(22)	(20)	(15)	(17)	(11)	(20)
歩行者自転車等	4	1	2	5	7	6	4	10	7	4	13
合計	177	158	148	141	152	144	120	115	131	104	129

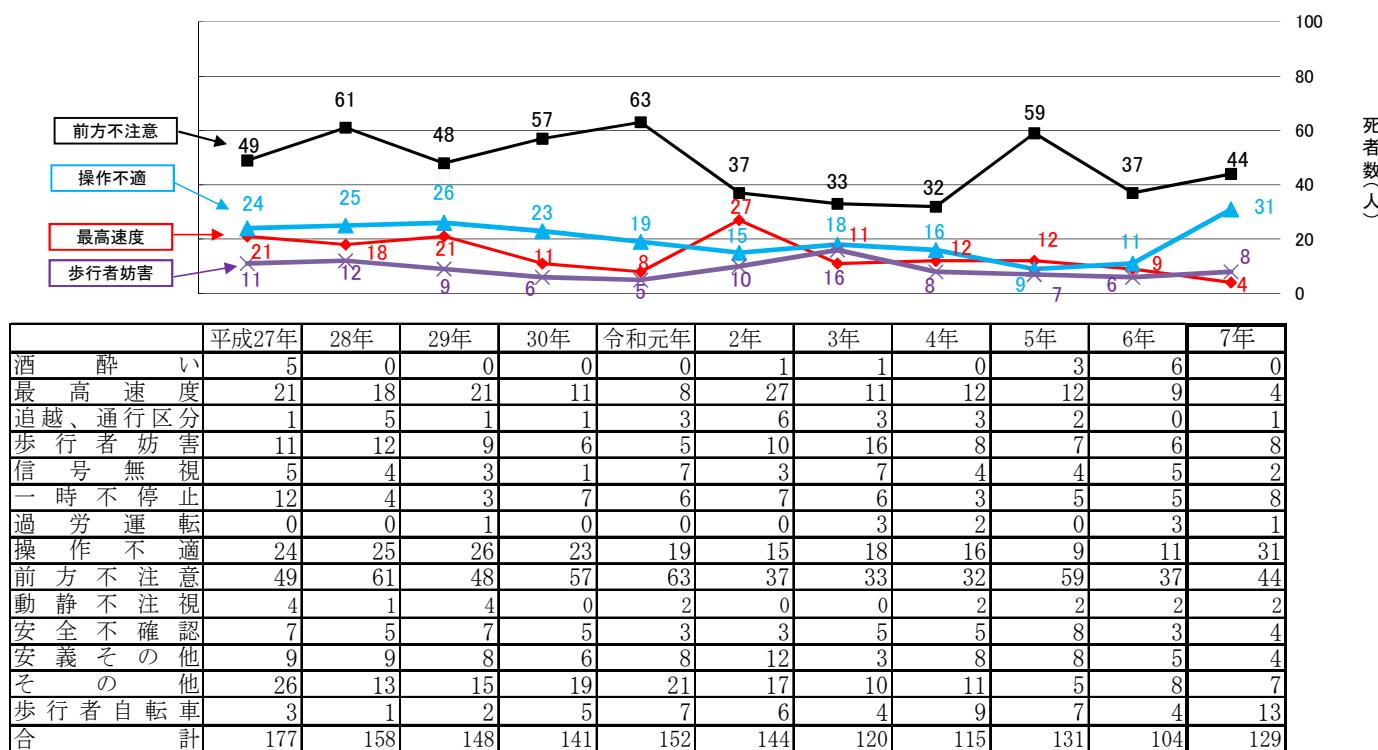
1 当高齢運転者による死者数を構成率でみると令和元年以降、令和5年以外常に30%を超えており、75歳以上はおおよそ過去10年では平成28年以降常に10%を超えており、



#### (5) 主な違反(原因)別

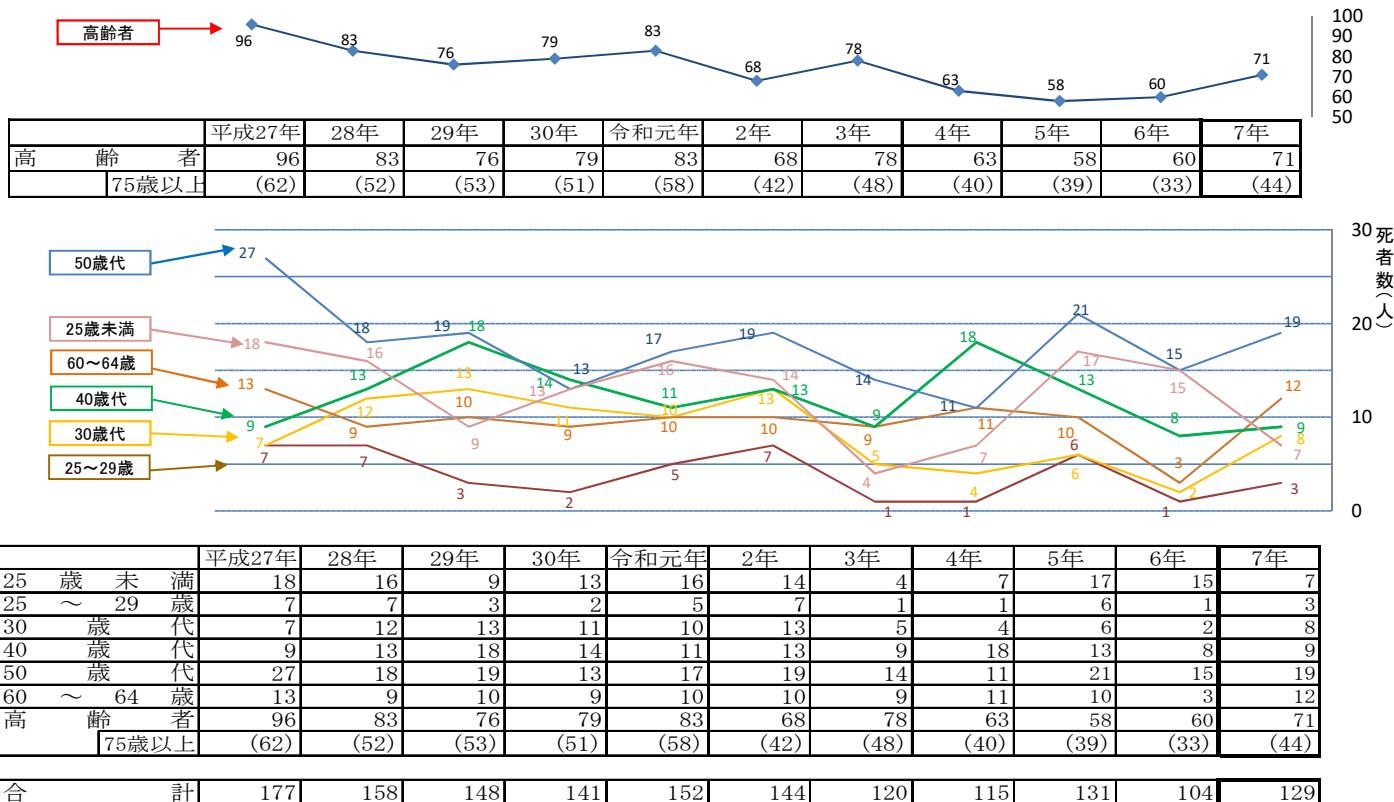
- 前方不注意は、令和5年に一時的に増加し、その後40人前後で推移している。
- 操作不適は、長期的な減少傾向であったが、令和7年は+20人で31人と増加した。
- 最高速度は、令和2年に大幅に増加したが、その後は、10人前後で推移していたが令和7年は4人に減少した。
- 歩行者妨害は、令和3年は16人となつたが、その後は、10人以下で推移している。

※記事及びグラフは主なものだけを記載しています。



## (6) 死者の年齢層別

令和3年以降、高齢者の死者数は減少傾向にあったが令和7年は増加に転じた。  
他の年代については、25歳以下及び50歳代の死者が多い年が散見される。



高齢者(75歳以上を含む)の死者数の構成率は、50%を下回ったのは令和2年と5年であり、全体として常に高水準にある。

